

この里見と
第一病理から
来た助手の
古川利三を
入れた

三人でガンの
問題^{*かんしゆ}の
問題について
研究を始めました

また富三博士は
ドイツから持って
来た

ウイルヒョウの
『細胞病理学』の翻訳に
とりかかりました

*間質とはガン細胞の回りの組織です

そして
この本が
出版されたのが
十五年後の
一九五七年
(昭和三二)です



努力の
成果です

第二病理教室は
吉田病理教室とも
言われ
昭和一六年に

佐々木仁一

牟田義男が
入室しました